

### お知らせ

〇2月の定例活動日；2月15日（日）今年度の活動発表会、於清和県民の森管理事務所、役員及び発表者は9時15分、その他の方は9時30分集合。午後豊英島に移動しシイタケ植菌、巨木林調査など実施の予定です。

〇会員の入退会；仕事と家庭の事情で 会員は1月7日退会されました。12月7日君津市東日笠の さん入会。12月26日君津市南子安の さんが入会されました。豊英島に近い地元勢の入会を歓迎し今後の活躍に期待します。

### 活動の記録

12月21日（日）晴 参加9名。巨木林調査のための臨時活動日。調査の目的と概要は3頁参照。

〇成長量調査；巨木林の成長を明らかにするための試験区を、巨木林の植生保護柵内に設定した。面積は20m×20mで、区域内の高木、亜高木を対象に樹種、樹高、胸高周囲長と区域内の位置を測定した。調査本数は約70本であり、今後は毎年の成長休止期に胸高周囲長を測定、その成長量を明らかにする予定。（福島記）



胸高周囲長測定

〇林床木本調査；植生保護柵内（20×20m）の林床に生存する0.2～3.2mの木本植物を対象にナンバーリングによる固体識別を行った。また、保護区外にも対照区として10×10の調査区を設けた。植生保護柵内は10×10mに4区分し、2区画のナンバーリングを終了し、それぞれ180本と143本の木本植物を確認した。また対照区は177本だった。保護柵内の残り2区画などの必要数を想定すると、さらに500本近くをナンバーリングすることになる。（伊藤記）

1月18日（日）曇 参加16名  
朝一番全員でニホンジカ生息調査、祠山に年初めの安全祈願の後、巨木林調査、造材作業、相対照度測定などグループに分かれ、よく働きました。



〇ニホンジカ生息調査；入林前に

福島動物班長の調査要領説明に続き、7コースに分かれて一斉に踏査。残念ながら？どのコースにもシカの声も姿も確認できなかった。島に餌が少なくなったせい、湖面に数多く浮かぶ釣り船に遠慮のせい、豊英島のアオキ低木の葉はほぼ全滅、糞は林内に散見され（特にマダケ林方面には多い）、上陸している形跡はある。（真鍋記）



年初めの安全祈願

〇林床木本調査；12月21日にナンバーリングを行った樹木（上記参照）の樹種、樹高、直径（根元及び1.2m高）の調査を行った。落葉期なので樹種が判別できないものもあるが、作業は順調に進み、植生保護柵内の2区画（180本、143本）は終了し、保護柵外（177本）の約半分が終了した。樹種、樹高、径などの速報は2月の報告会をお楽しみに。（伊藤記）



林床木本の樹高測定

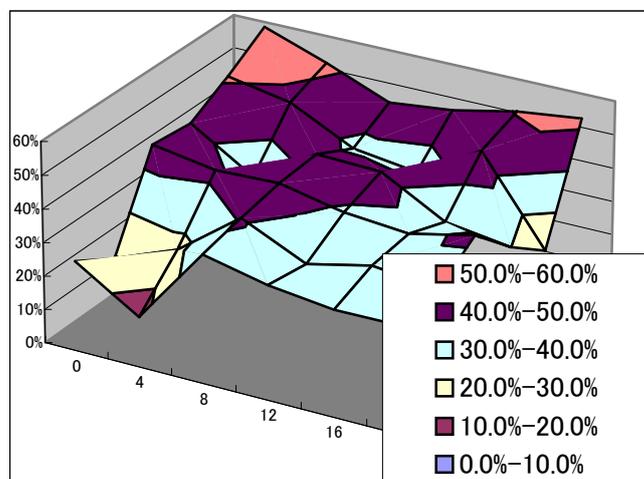
○造材・運搬作業；11月の安全研修で伐木したコナラをシイタケホダ木用に90センチ長に玉切りし、80本のホダ木を作製、シイも径細い部分はホダ木に10本、ホダ木計80本、2月に植菌予定。またシイの径太い部分は35センチ長に玉切りして昼食用イス十数人分作製し、昼食前に広場に運搬。径がチェーンソーの刃長を超える玉切りは初心者にもベテランにも苦心の作業。(真鍋記)

○シイタケ収穫・試食；収穫は主に07年植菌のシイタケ、日照り続きのせいか収穫は少なく3キロ弱、乾燥ぎみで少し硬いが、味抜群のドンコ。昼食時にみんなで美味しく味わった。

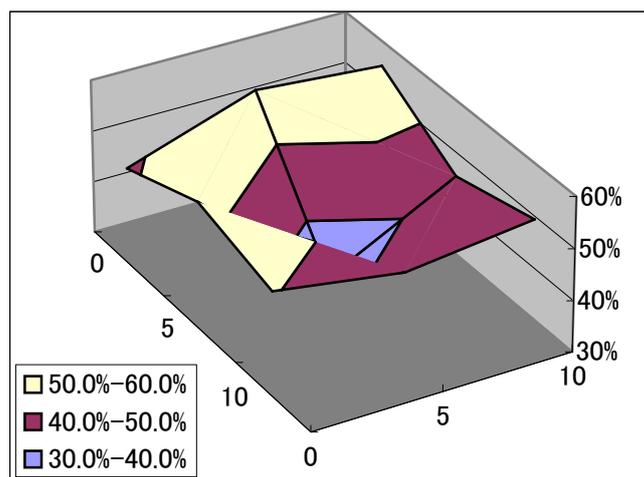
○相対照度測定；植生保護柵内の林床木本調査区を含む20m×20mの区域と、植生保護柵外の林床木本調査区10m×10mの区域において相対照度の調査を行った。使用機材は照度計4台とトランシーバ2台、林外の照度は吊り橋の中央で測定した。測定時間は、午後1時から2時、天気は曇りで林外の照度は安定していた。林内の照度は、植生保護柵内では4m間隔で36点、柵外は5m間隔で9点、計45点で測定した。1点当たりの測定回数は3回とし、3回の値の平均値を相対照度とした。また、測定する高さは地上高1mとした。相対照度は、植生保護柵内では15.0%~58.5%で36点の平均は38.5%、柵外は32.6%~57.1%で9点の平均は48.9%であった。(福島記)



相対照度測定は柵内外で45点×各3回



植生保護柵内の相対照度



植生保護柵外の相対照度

○このほか；(1) シイタケを食べるニホンザルの姿をぜひ見たいという要望を受け、巨木林シイタケホダ場にセンサーカメラが設置されました。(2) ツガにシカのツノ研ぎ跡が発見されたため、防止のため金網で保護しました。(3) 古井戸復元の可能性を探るため井戸跡2か所を下見しました。厚く堆積した落ち葉を掻き出して調査する必要があるようです。(真鍋記)

### 「千年の森」の活動に参加して

君津市 男性

昨年暮れに入会させていただき、18日は初めての活動参加でした。午前中はシイタケのホダ木作りと運搬、午後は照度測定です。皆さん、自分の役割を生き生きと楽しそうに果しているお姿が印象的でした。3年前に妻と二人君津に転居してきました、現在は週2日東京の古巣の子会社で働き、あとの5日は家庭菜園の農作業やゴルフ、房総の味探訪などを楽しんでいます、千年の森の活動に参加させていただいて、また一つ楽しみと生きがいが増えたようです。今後とも宜しくお願いします。



照度測定中の 夫妻

## 千年の森の巨木林調査

ちば千年の森をつくる会 08年12月

### <目 的>

千年の森をつくる会が森林の整備を行っている豊英島は、スタジイ林、落葉広葉樹二次林、マダケ林などのさまざまな植生から成り立っている。このうち巨木林を目指して森林整備を行っている落葉広葉樹二次林において、次の調査を実施する。

(1) 巨木林の成長量を明らかにする調査（成長量調査）

(2) 今後の森の変化（発達過程）を予測するために、その質的及び量的現状を把握する調査（林床木本植物調査）

また、島内ではニホンジカの生息が確認されており、近年になって島内の植生にニホンジカの食害による影響がかなりでてきている。そこで、ニホンジカの食害による島内植生への影響を具体的に明らかにするために、平成20年5月に設置した植生保護柵内外での林床における木本植物の消長及び成長調査を実施する。

### <方 法>

#### 1 成長量調査

##### (1) 調査区の設定

巨木林区域に設置した20m四方の植生保護柵内を調査区とし、胸高周囲長6cm以上の高木性樹種について、樹種、樹高、胸高周囲長を測定し、柵内での立木配置図、樹冠投影図を作成する。

##### (2) 翌年以降の調査

成長休止期に胸高周囲長を毎年、樹高を5年毎に測定する。

#### 2 林床木本植物調査

##### (1) 調査区の設定及び調査項目

ニホンジカの食害の影響を受けない調査区として巨木林区域に設置した20m四方の植生保護柵内を調査区とし、さらに食害の影響を受ける調査区として植生保護柵外の隣接地に10m四方の調査区を設定する。

各試験区内の樹高20cm～320cmの木本植物について個体識別（番号札）し、各個体の樹種、樹高（自然高）、根元（胸高以上の個体は胸高直径も）を測定する。

##### (2) 翌年以降の調査

毎年、成長休止期に樹高及び直径を測定する。さらに枯死個体から番号札を回収し、新たに20cm以上に達した個体には番号札を付けて測定する。

調査区内の相対照度の分布を、落葉期の12～2月と着葉期の6～8月の年2回、曇天時に10m四方当たり16箇所（2.5m間隔）で測定する。